

17 伊勢海老 正封勲造 一点

昭和二十五年（一九五〇）

玳瑁

三五・五×五一・〇×四三・〇

玳瑁で作られた伊勢海老の置物。細部まで、極めて写実的にとらえており、さらには足や触角、体部など節々で各部を動かすことができる構造となっている。こうした可動式で、龍や蟹、海老などの対象物を写実的にとらえた置物は、金工品において江戸時代中期頃から制作されており、自由に動かすことができることから「自在置物」と呼ばれている。本作はこうした「自在置物」などに着想を得て、玳瑁という材を生かしてリアルに作り込まれた作品である。尾の関節の部分には、微塵に砕いた貝を象嵌し、玳瑁の下に金属箔を入れてその輝きを透かして見せるなどの工夫が凝らされている。

本作は、昭和二十四年五月に昭和天皇が長崎県を御訪問された折の記念の品として制作され、翌年四月に長崎県より献上されたもの。作者は、長崎にて鼈甲細工の名工として知られた正封勲造（本名勲三、一九〇八〜八一）である。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

福やぶござれ ― 寿ぎの美・新春に集う

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 42

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十九年一月六日発行

©2007, The Museum of the Imperial Collections